

## 第3回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録

■開催日時：令和2年1月15日（水）10:00～12:00

■開催場所：香南市役所本庁舎 3階第4会議室

■出席委員：受田浩之委員長、田内修二副委員長、竹内 淳委員、岡林八重美委員、宮崎利博委員、中脇正人委員、長崎篤史委員、古川和佳委員、百田年真委員、國松美紀委員、水田貴士委員、土居秀臣委員

■事務局：野島農林課長、岡林商工水産課長、前川こども課長、岩田地域支援課長、西内企画財政課長、浜田企画財政課長補佐、田淵、嶋内

### 【次第】

#### 1. 開会

市長あいさつ

#### 2. 委員長あいさつ

#### 3. 議事

(1) 第2期香南市総合戦略の基本的な考え方と基本目標について

(2) 第2期香南市総合戦略の構成と概要について

■委員長 [参考資料1) が国の第2期総合戦略の概要ということで、これを受けて高知県も第2期総合戦略の策定を今、検討している。

高知県の予定も重要で、34市町村の総合戦略と県の総合戦略はどのような形ですり合わせを行っていくのか、34市町村が独自にやった結果が県の総合戦略と齟齬がある場合にどう考えるか。ということも一つ考えておかなければいけない。

■委員 今月23日に高知県で高知県産業振興計画推進本部会議が行われる。その中で、総合戦略についても話があり、その時に県計画推進課も話を聞くという予定で、現時点では新たな情報は入ってない。

■委員長 高知県は尾崎知事から浜田知事に交代し、県のトップの方向性というのかなり大きく変わっていく。2月の初めに産業振興計画のフォローアップ会議とあわせて開催される総合戦略の議論の場で委員長をさせてもらうが、事前に知事と議論する時間を今月中に設けるようにしている。

■委員 市町村の連携については、「れんけいこうち」に情報提供しており、高知市を通じて各市町村には県の状況を流している。れんけいこうちの会も間が空いていて、現時点で言うと新しい情報は流れてない。

■委員長 県下で総合戦略の話が一番進んでいるのが高知市である。事務局より国の動きを簡単に説明していただきたい

- 事務局 国の動きとして、第2期における新たな視点が6つ示され、4つの基本目標が修正されている。また、新たに横断的な目標として2点が示され、すべての目標に関わる目標として追加されている。これを受けて、香南市においても基本目標等を提案させていただく。
- 委員長 委員の皆さんには基本目標の大きなところから話をいただき、いただいた意見を踏まえて少し具体的な内容に入っていければと思っている。
- 説明が広範囲になるが、第1期から第2期で国の方針等が変わったことを踏まえつつ、香南市としてどういうふうに第2期を考えていくか、ということでポイントをお話しさせていただいた。
- 委員 今まで20年ぐらい子育て関係の委員をやってきた。若い世代の結婚・出産・子育てに関して香南市は充実していると思っている。だいぶ改善もされているし、にこなんもできてサポート体制もできている。
- これらを行っている人たちへの金銭的な援助や「ありがとう」という気持ちがこれから大事なのではないか。1番ガッカリすることは、行政の方でいまいち熱がないと感じることがある。ハード面は出来てきたが、ソフトの面でやってくれている人への援助というか、励ましといったことが重要になってくると考える。
- 委員長 担い手の方々の待遇の環境整備は大事なポイントである。やりがいというのは3つのポイントに紐解いていけると言われていて、①感謝されること、②本人が成長していると実感できること、③自分自身の願望が達成できること、の要素に分けられる。それぞれが待遇や環境として整備されているかということが大事になる。特に、地域経営的な話になってくるが、お金を無視して持続していくことはあり得ない。そこをどう考えていくかについて、それぞれの産業で考えていかなければならない。
- 委員 職員も含めて熱い思いを持っておかなければならないという気持ちは持っている。多様な人材の活用、ボランティアの活用ということで、国の方向性の中にも、4つの目標をまたがった横断的な目標にも関わるが、香南市ではまちづくり協議会や住民自治という形で積極的に取り組みを行っている。地縁的な活動と市民団体のボランティアの活動は両輪であり、両方をやっていかなければならないということで取り組みを始めた経緯がある。そういう意味では、自治会やまちづくり協議会などの地縁団体的な方をまずは充実させ、ボランティア的な分野については社会福祉協議会の中で一定の事務局という形をとってきましたが、更なる充実というところで、考えなければならぬと思っているのでさまざまなご意見等をいただきたい。
- 委員長 この後、基本目標3を充実させ、持続できるようにするには、といった具体的な改善案について意見を求められることになるので、ご意見はそこの中にしっかりと打ち込んでいって、現状が厳しいところがあるとすると改善が必要であり、お金の話を含めて、国の制度へどう働きかけしていくのかで変わる、県を通じて国へということもある。
- 内閣府内に行政改革推進室があり、ファミリーサポートセンターにおいて、ミニマム

で設定されている数値を下げてもらうといった、規制改革を行政の方から提案していただく。行政改革推進室もそういったアイデアを相当欲しがっているという話が出てきているので、ぜひ行政を上げて具体的に提案を発信していくことをやっていただきたい。

■委員

前回の議事録を見ていると、香南ケーブルテレビの取り組みを取り上げてあげてくれていることが嬉しく思う。私どもが作っている「香南っ子クラブ」という番組があるが、小学校4年～6年の子どもたちがリポーター・アナウンサーをして、特産品・お祭り・歴史等を学びながら体験している番組となっている。地元を知り地元への思いを育む狙いがある。ふるさと学習というか、体験しながら知っていくためのさまざまな企画をスタッフも考えている。ほかにも香南市の農業や商業を営んでいる方がどんな思いをしてこの香南市でやっているか、それを子どもたちに体験してもらおうとか、学ばず仕組み等をつくることで、「香南市を知り、好きになり、香南でしかない、ここだから」といったものや、「大人になってもここに住みたい、ここで子育てして暮らしたい」ということになっていければ、そういった取り組みが出来ればいいなと思っている。

■委員長

ケーブルテレビさんの取り組みを発展させていきながら、地域愛をしっかりと啓発して実践していただきたい。

■委員

小中学校が週休2日制になる際、土曜日に集まって子どもたちの面倒をみようという話になった。子どもたちが何が一番興味があるかというのと、昔の遊びや野原で遊ぶといったことだった。1回目に企画したのが大日寺から三宝山へ上がるラインを、行って帰ってくることであった。毎年、道筋が変わるようなところで木が倒れたり道が無くなったりと、それが子どもたちには嬉しいようでしばらくこの取り組みを行っていた。ケーブルテレビも何度も取り上げてくれた。

今も取り組みが続いているが、以前と内容が変わってきていて、野市町だけでなく香南市全体の子どもが対象になっている。多い時で約70人、少ない時でも20人程度が参加してくれている。当時の子どもたちが二十歳を超え、中には学校の先生になっている子どももいる、その子たちは今でも声をかけてくれる。非常に嬉しいことだと思っている。

■委員長

実際に育った方々が更に地域において育成する立場になっていく。知の再生産という言葉を使うが、育んでいったものがやがて地域にとって新たな担い手になっていくという仕組みができれば理想的だし、そこまでやり遂げることはなかなかできないことで、今の実績というのは相当の価値があるといえる。

スイスのマッターホルンの麓にツェルマットという観光でも有名な町がある。訪問した際、地元の小学校を見学してきたが、「地元学」という授業をずっと展開していて、猟師さんが授業をやっていた。仕掛けから全てを猟師さんがやっており、捕獲したジビエが地元のレストランでどのように使われているかといったところまで授業をしている。全ての産業・観光産業を網羅している。そこへ、この地元学を通じて、スイスは資

源の限られた国ではあるけれども、このツェルマツトは地産地消率が明らかに他の国・地域よりも高い。地元を愛する気持ちが高まる。それからスイスを愛する気持ちが生まれて、まず観光産業にも相当大きな影響がでてくる。ツェルマツトは旅行者のリピーターが高く、20年に渡り20回ツェルマツトに行くと、市長のような方が表彰するという制度で、一見さんよりもリピーターを重視しており、地元愛とも全部繋がっている。おそらくこれ自体を観光にしていくという考えもあり、滞在日数を上げて、客単価をどう算出していくかといった話に繋がる。そういった意味で今の話を更に香南市版として描いていった時にさまざまな企画へとステージを上げていくこともできる気がする。

■委員

「観光というのは1つの利用するコンテンツである」と考えているが、何を発信していくのかというと、「この地域を守っていく人であり、この地域を継続しようとしている人」を観光というものに乗せて発信していくということに尽きると思っている。来ていただいた時に、この地域を守る人などの物語がないと何も感動が生まれれないということになってくる。基本とする考え方はこの地域に住む、プラス生きている人で作ってきた歴史、その背景も全て人が関わっている、といったことを基本としてそれを発信していくことが無いと地域の観光は成り立っていかないのではないか。発信するものも自然に選別されてきて、観光で人を呼ぼうとした時に何を発信していくか、この地域の観光は基本的にファミリー層になる。のいち動物公園がトリップアドバイザーで1位になったが、そうすると対象はそのファミリー層の年代であり、その年代に合うものを提供できれば共感を産み、多くの方が来てくださるような整理ができる。そういった整理を一つずつ見ていくと、例えば教育の部分においても他の産業においても、そこに共感を産む人にきちんとした情報を提供できれば、観光の位置づけとして来ていただけるのではないか。

新しい事業として6次化の事業もさせていただいている。そちらは視点がだいぶ変わってきて、協議会が、稼ぐ（人を招いて就労してもらおうといったこと）に繋がる部門に何を提供できるのかは、日々考えているところである。最終的には全てのことにおいて、この地域は人であり、地域を守る人が必要なのかと思う。

娘が東京に出て行っているが、子育ては香南市が良いと言っている。帰ってくるというのであれば何の魅力があつて香南市に帰ってくるのか、帰ってきたいけど仕事が無いから帰らないといった先入観を持っていると思っている。ハード面や子どもたちを説得して帰ってこさせるといった魅力・要素がどれだけあるかによって選択されるのではないか。香南市に魅力がないと帰ってこれないし、そのために今ある魅力を継続していくことが必要で、継続していくためにはその思いをしっかりとって行動に移せるといったことが必要だと思った。

■委員長

のいち動物公園については、こんなに価値のあるものが域内にあるということはずごくいいこと。ターゲット層として、ファミリー層や子どもたちというのが自然と出てきて、コンテンツを並べてみると基本そういう作りになっている。そこをもう一度マーケティング

ング戦略のなかで正確に立てていただき、パッケージ化していくかによって、滞在時間をどれだけ伸ばせるか、1時間滞在時間を延ばせば客単価は千円伸びることが基本と言われるので、戦略的に考えていけば、観光産業の成長は相当あり得る。観光部会でも具体的にしっかりともう一度デザインしていただくと相当大きなものができ、且つ基本目標の全てに関わっていくのではないかという感じさえする。特に、関係人口は正にキーワードにもなっているが、今の話のなかでいけるのではないか。

#### ■委員

8年前に U ターンで高知に帰ってきた。結婚して子育てするといった将来を考えた時に「香南市に帰りたいな」という思いがあった。当時、強くこういった施策があるから帰りたいというわけではなく、自分が生まれ育った所なので子育てする時に想像しやすかった。こういうことをしてくれるし、自分の子どももこんな体験をさせてもらえるだろうといったことが分かるという思いから帰ることにした。

帰ってきて、仕事がないということをも自分自身も感じたことである。仕事が無いわけではないが、東京の基準で考えると、給料額の面で全然変わってきて、大手企業が少ないなど、金額面だけで見ると高知へ帰って生活していけるのだろうかというところで、本当は仕事もあるのだけれど、仕事が無いといった感覚になると思う。

そこで、新たな産業を創出するというところは重要なポイントだと思う。また、Amazon や大手ホテルがリモートワークを比較的推奨していて、一定期間都会で研修期間が必要だが、その後は自宅で仕事ができる会社も増えている。新しいところでは、Youtuber など自分で新しく仕事を始めることが、最近、世の中に浸透して、世の中が受け入れつつあるのかなと思う。例えば、香南市内にワーキングスペースを確保し、自分たちで IT を使って仕事している人同士で情報を共有して新たな産業を産む場を作ったり、新たなチャレンジをする人を香南市として応援するようなプランを立てたり、今までにない産業を産み出す人々をサポートすることも大事なのではないか。

#### ■委員長

具体的なアイデアをいただいたので、これは是非参考にさせていただきたい。

給料が少ない、大手企業がないといった話はいつも問題に上がってくることではあるが、地域の経済的な状況によって給与の額面どおりではないところがあるので、どのように考えるかは1つ非常に重要な点。基本目標の中の「産業創出」、「魅力あふれる産業」の中に IT 系 AI 系の産業を入れているので、ここは1つ今の話と合致する。今、日本は徹底的にデータ・サイエンティストが不足していると言われていて、国からそれを教育機関として育てると言われていて、令和2年度から国全体として大きなうねりができそう。教育の中でもデータ・サイエンスが入ってくるので子どもたちの世代は AI といった言葉を使っているのは、もう当たり前になる。時代の変革期でもあるし、それをわれわれはどうやって追い風にしていくのか、基本目標の中に「学校教育機関との連携」と書かれているところは、具体例が書かれていないので、そういった所を盛り込んでいくべきだという気がする。一例だが、AI で日本のトップの東京大学の松尾先生がいらっやって、生まれは香川県三豊市なので、香川県で AI 教育を充実させるという動き

に乗り出している。高専をつかって、その地域の子も達の AI 教育に特化していくというプログラムを作っている。独自路線で香南市にゆかりのあるデータ・サイエンティストのような方を探して連れてくるといったことができれば相当大きなくさびになるので、そういう方を連れてくるといった手は一つの案だと思う。

■委員

前回の4本柱を変えないということは非常に良いことだと思う。また、資料1の4ページ目の新たな工業団地の造成というところで、三菱の跡地関連だけでなく、別に造る流れがあると分かり非常に楽しみだ。工業団地というのは5年～10年たたないと効果が出てこないで、今から取り組んでも2期目の終わりに出来ているがいないか分からないところなので、ぜひ取り組んでもらいたい。特に、企業を誘致する時に具体的にこの場所へ立てるメリットがなければいけないし、どこへでもということではできないので是非やって欲しい。

「移住促進の為の宅地開発等について取り組む」について、「取り組みます」といった表現があちこちに出てきているが、宅地造成については、行政が力を入れるというよりは、香南市は今、民間業者の宅地開発が、非常にエネルギーがあるので、むしろ「宅地の確保と整備」といった言葉が良い。

また、ポリテクカレッジ周辺で開発されている宅地を見てみると、ほとんどが合併浄化槽になっている。開発した宅地の下水は都市下水で持つということが基本的な考え方だが、そこは都市下水の区域に入らなかったのが農村下水となっている。しかし、農村下水もパンクしてしまうので出来ないから合併浄化槽になっている。各宅地の中に全て合併浄化槽がある、とても不合理である。今、問題になっているところを調整(都市デザイン)するような整備の方向へ行政としての姿勢をもっていく必要があるのではないか。

最後に、移住の話だが基準値が29組、目標値が25組というのは、市民から見たら香南市は移住の目標下げるのかと思われるのではないかと。県全体の移住目標人数が千組と言われていて30分の1が30組だが、目標値を25組と打ち出すのであれば市民に対して説明書きが必要だと思う。

■委員

既存の工業団地については、全区画完売したので、新しい工業団地を造る予定だが、適地調査からはじめるので時間がかかるかと思われる。三菱の隣については、今まで駐車場として使用していたところを市が購入することができたので、早速来年度には分譲を開始したいと考えている。西側の第2の方は県の誘致になっているが、ほぼ同じように進んでいると聞いている。

宅地の開発等について市全体で考えることが必要で、野市町への人口が一極集中している。その他の町村は人口減少が続いている。市南部は津波の浸水予想がされていて、宅地造成を市が最後まで整備するのか、民間で行っていくのか、といったことも踏まえて、場所としては津波の浸水エリア外で野市町以外といった考え方を持っている。すると、香我美町・夜須町になってくる。市役所内部での関連各課での協議の中でこの地域

で考えられないかというところはおおむね固まってきている。第2期の総合戦略においては優先的な事業として、工業団地、IT企業の誘致、宅地の再整備については優先的に取り組んでいきたい。下水等については今、整備計画作り直しているのので、例えば農業集落排水と公共排水の統合や農村下水との統合も、長期計画にはなるが企画反映させていく。今後合併浄化槽のエリアを下水エリア変えることについては現在計画をしてないし、方向性としても厳しいものがある。

■委員長 まちづくりランドデザインではゾーニングも行っている。そのゾーニングに基づいて、その今の宅地等が行われているか、下水の整備等に関してもしっかり関連しているのか。工業団地に関しては基本積極的にやるべきだと思うが、IT系を集積させる時とものづくり系を集積させる時には、立地適正が違うので、何でも誘致するのは集積のメリットを失う。集積のシナジーを発揮するために、何を目的にそこは集まっているのか明確にしていくコンセプト作りがあって、そこから立地適正があって、コアになる企業がどんなものになるのかというところに話が繋がる。

■委員 新たな工業団地についてはものづくり系を考えている。事務系IT系の企業誘致については、まずは既存の民間施設や、今後は公共の空き施設になっていくことが予想される施設に誘致していこうと今は考えている。

■委員長 日南市でITのサテライトオフィスのモデルが非常に盛んになっている。市長が提案されていて、ああいうまちづくりは良い。

■市長 IT企業が集積するとさまざまなメリットがある。視察の際に分かったことの一つが関東圏からが大部分を占める移住者が、日南市の油津地区の地域のいろいろなことに携わっていく中で、新たな新たな力や考え方ができ、油津地区商店街が独特の感性を出している。雇用もできるが地域のいろいろな活動で新たな方向や新たな知もでき、一石三鳥や四鳥になっているさまを目の当たりにした。

■委員長 油津地区は相当選りすぐったユニークな方々が集まってきているので、私も非常に注意深く重視している。そんなところを参考にさせていただいたら良い。

移住のKPIについてはどうか。

■事務局 この3年間で移住相談窓口を通しての移住者数が伸びている。平成29年が29件と市としては嬉しい指標になっているが、第2期の目標は低い目標設定(25件)となっているので、ここは人生支援計画と合わせて情報修正ができるように総合戦略の担当とすり合わせていく。

■委員長 高知県の方が目標1000組と語れるかどうか、今度、産業振興計画も含めてKPI設定は絡んでくる。県の大きな人口ウェイトを占める香南市がこれだけかと思われ、値が下がってはいけないので、どう折り合いをつけていくか。

■委員 農業について、令和2年からの先駆事業は特に見当たらないが、今までの支援で環境整備技術の普及が結構進んでいる。打ち止めといった話も出てきており、予算の関係もあるが5年間続くと言えるか。

- 市長 「産地パワーアップ事業」のことと思われる。アメリカと包括貿易協定を結ぶことになったので、引き続き取り組む施策をいろいろと考えている状況であり、今のところは来年の令和2年で打ち切りなどにはならないと予想している。
- 委員長 現場の声を発信していただき「どうするんだ」という意見を国に提案することが絶対必要なので、こういう場で声を上げていただくことが、まず一つである。また、計画に書き込んでいけば、やるべき具体的な方向性になる。
- 委員 国や県の補助がなくなっても、香南市は市単独補助金があるので、この先も期待している。
- 委員長 ワンチームとしてやっていかないと、誰が補助するかというよりも、誰が1番メリットを享受できて、それが市の為はどういうふうな長期的役割を果たしていくかが見えてくると思う。第2期産業振興計画農業部会の中でも話が出てくると思うので、是非その中で話をさせていただきたい。また、第2期をするのに目新しい施策が無いというところが非常に気になる。
- 委員 ここに書かれている事業「人・農地プラン」を維持していけば、また発展に繋がる。その中で、パワーアップしていかなければならない事業が出てくると思う。今はまだ農家に「人・農地プラン」について知っているか聞いても、「何だ、これ」と言われる。知名度が低い。周知を令和2年から始めていくことで、貸したい人、借りたい人が出てくると思うので良いと思う。
- 委員長 農業関連でいうと事業責任者として IOP (Internet of Plants) に取り組んでいる。これがいつ現場で技術的に実走されていくか、研究は進化しつつ、また、組織的な運営をやってくことも具体的になっている。もう少しすれば、農業に従事されている方に対して相当メリットが生まれていく形になるというところで、今順調に進んでいる。今後、高知大農学部でやっているという地理的なメリットをご当地に活用していただきたい。これがまた大学連携や高等教育機関との連携で、society5.0の部分と対応していくと思っている。
- 委員 前回の会の時に「ちんどん」の話をしたが、早速ケーブルテレビの番組の中でとりあげてもらい嬉しい。また、まちの出来事の中で市長が赤岡小学校6年生と話をしていた中で、高知は漫画甲子園もあるため「お笑いの甲子園を弁天座でやりたい」という話になった。今年の冬の夏祭りでは、お笑い芸人のセントラルドグマを呼んでお笑いライブを2回したが大盛況だった。お笑い芸人は子どものなりたい職業上位にもある。狭い高知県の中でも日本一を目指せるといった夢も膨らむ。今週末、マリンホールで開催するよしもとお笑いライブは、チケットが即ソールドアウトになったと聞いている。市でお笑いの大会をやるというのも大変面白い企画だと思うので、できるようならサポートしていきたい。
- また、40歳限定で高知県全体を対象にしてやる2回目の成人式というイベントの実業委員に抜擢されているが、新阪急グランドパレスに500人が集まる予定になっている



る。イベント事が好きな県民性なので、商工水産課・地域支援課の方とも協力しあっていろいろ仕掛けていったらいいと思う。

■委員長

いろいろな企画を進めていただくと同時に、2回目の成人式等の人の集まりの中で、香南市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を話題にさせていただくとか、そこに市長が行くとか、同じ世代の方々が同じ地域で暮らしてこれからの地域を背負って立つ方々に「総合戦略って関心あるの？これ大事だよ」という意識を共有していただくと全く展開も違うと思う。ぜひ企画の中に入れて、委員にも集まりの中で説明していただきたい。

■委員

宅地開発のところ、民間の業者が活発に事業されているが開発するまでに、市に申請して、それに結構な時間がかかると言われている。人口増加を目指すと言われてるのであれば、分譲が始まれば完売するのは早いので、時間短縮していけばより宅地の増加は進めていけるのではないかと。子育て支援についても、これから進めていかなければならないが、人口のところは宅地造成していけば進むのではないかと思った。

■委員長

手続き的なことがどうなっているかというところ。

■委員

農地法というのは農地を守るものである。一般的な手続きとして、除外ができるエリアであるとすれば、農業振興地域から転用する場合、1年ぐらいの期間が必要で、最終は県の許可となる。

一方で、市として、どういうところに宅地を造っていくのか、どういう工業団地を造っていくのかを検証していき、計画に基づいて今後取り組んでいくものについて、それぞれの法の規制の枠組み等を変えていくという動きはしていかなければならないし、一定の期間がかかることが現状である。

■委員長

まちづくりランドデザインとも関わってくる。関連して考えていかないといけないと感じた。

■委員

県としても工業団地の重要性は十分感じていて、香南市だけでなく他の市町村でも推進していかなければならない。県内ストックが少なくなっている状況で、なかなか県内に打ち込む玉が無い。高知県は南海トラフ地震で津波浸水地域があるので、浸水区域から移転を望む企業がいる等、通常の企業誘致とは別の視点で工業用地の確保も進めていきたい。

香南市は交通インフラも情報インフラも非常に整っていて、ポテンシャルの高い地域だと思っているので、整備を進めてもらい新たな企業誘致に取り組んでいただきたい。また、県と連携することになるが、既存の企業の育成といった視点でこんな企業を呼べばよいというところを考えていただきたい。

■委員長

考え方のヒントになるかと思う。

■委員

観光で今一番必要なものは、分析され、整理されてきた。「サービス」がないと人は来ないというところで、一番この地域で抜け落ちているところだと日々感じている。諦めていた部分でもあったが、「受け入れ態勢の強化」という漠然とした文言ではなく、「人

が人に与えるサービスの強化」のようなことを観光の計画の中に入れていただくと、実際に受け手側（実際に動かす側）のビジョンも明確に変わってきて、人が多く来てくれるのではないかと思う。これからサービスの強化といったところが、今からの「受け入れ態勢の強化」では一番大切なことではないかと思う。

#### ■委員長

全ての鍵を握っている重要な意見。

今日の意見を反映させていきながら、2月後半に委員会を開催する。委員の方からも、今日の会で言えなかったことなどを事務局に言っていただくよう、いろいろな形で相談していただければ良いと思う。また、次回にご議論いただき、どのような形で反映していくかというところを共有させていただく。

基本的な目標1から4にかけてと、横断的な目標については、特にこの基本目標をどういうふうに変えていくべき・横断的な目標の必要性等に関して改善を図るような意見は出てこなかったように思う。基本目標についてはこの作りを基本にいただきつつ、今日頂いた意見を具体的に反映できるところを反映し、KPIについては移住組数などで少し再考するようご指摘いただいているので、KPIに関して懸案事項としていただき、次回そういったところも睨みつつご提案していただきたいと思っている。2月に県の総合戦略の具体が掲示されますので、それも含めて、それをどうやって反映させるかも次回の策定員会の中でご提示いただきたい。皆さまからご意見いただきたい。

#### 4. その他

今後のスケジュールについて（事務局説明）

#### 5. 閉会